



# 鹿児島県言語聴覚士会ニュース

## 今号目次

### 巻頭言

1-2ページ

### 新人紹介

3-4ページ

### 事務局通信

5-7ページ

### 地域局

8ページ

### 社会局

(公共事業・保険)

9-10ページ

### 社会局(広報)

11ページ

### 学術局

(新人教育)

12ページ

### 学術局

(生涯学習)

13ページ

### 学術局(小児)

14ページ

### 財務局

編集男誌

15ページ

## 巻頭言

鹿児島県言語聴覚士協会 学術局 成人学術担当 小倉道弘

言語聴覚士の数は年々増加傾向にあり、社会に対して「言語聴覚士」としての質の保証が求められています。

専門職としての言語聴覚士は、障がいの全体像を把握し幅広く対応することができるGeneralistと、特定の分野における専門領域に対する高い水準の知識と技能を有するSpecialistの2つの視点での継続的な人材育成が急務となっています。

一般社団法人 日本言語聴覚士協会（以下、協会）は、卒前教育のみでは習得が困難な専門職として必要な技術・知識を習得するために「基礎」と「専門」のプログラム、「認定言語聴覚士制度」を発足し、臨床実践の基礎から、高い専門的臨床技能、臨床研究を継続的に学習することができる仕組み作りを行なっています。

リハビリテーションの対象は疾病ではなく「障がい」であり、目の前にいる対象者（児）の「障がい像全体」を捉えることが重要です。しかしながら、近年の医療・福祉・教育・療育を取り巻く環境としては個々の機関・施設がそれぞれの機能を明示して連携を求められている現状があり、各々の職場に勤務する言語聴覚士は各phaseにおける「障がい像の一部」にのみ関わるが多く、対象者（児）の全体像を把握することが非常に困難な環境となっています。

医師・看護師は卒後研修制度としてクリニカル/キャリアラダーの制度化が進んでいますが、（検討はされてはいるものの）協会では十分制度/整備化されているとは言いがたく、各所属機関にて行われている現状があります。

これらの課題に対する職能団体としての役割について、会員としての高い帰属意識をもち、一人一人が声を挙げていく必要があると感じています。

EBM (Evidence-based Medicine)とは、「入手可能で最良の科学的根拠を把握した上で、個々の患者に特有の臨床状況と価値観に配慮した医療を行うための一連の行動指針」などと定義されています。EBMの概念に基づいた言語聴覚療法を実践するには、対象者や環境の要因、経験による課題も多く、研究の蓄積が臨床に十分に活用されていない側面が見受けられます。

鹿児島県は昔から郷中教育という文化があります。私は、一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会（以下、県士会）に人柄・専門性共に優れた言語聴覚士がたくさんいることを知っています。今後、風土に根付いた教育の文化が活かされる仕組みづくりが求められていると考えています。

職能団体の継続的な発展は、私たち一人一人の暮らしにも関わってくる重要な課題です。先達の功績によって今の私たちの職務がありますが、未来永劫続く保証など何処にもありません。協会や県士会の取り組みが、自分たちの職能の将来にとって重要な意味をもっていること、会員一人一人の主体的な取り組みと協力によって継続的な発展を支えていることを改めてご理解いただければ幸いです。

今後も会員一人一人が協会、県士会の動きに関心をもち、注目しておく必要があると思います。

学術局 成人学術担当  
小倉道広

## 新人紹介 | 医療法人三州会 大勝病院 福永まどか

私は令和3年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は、医療法人三州会大勝病院で言語聴覚士として勤務しております。当院は開院以来、脳卒中や神経疾患へのリハビリテーションや、障害があり地域で生活される方のかかりつけ機能を担っております。

令和2年4月に建て替えを経てリニューアルオープン致しました。神経内科、リハビリテーション科を有し、病床数は、一般病棟93床、療養病棟228床（回復期リハビリテーション病棟60床、地域包括ケア病棟42床）の計321床となっております。リニューアル後は更なるリハビリ環境の充実を目指し、建物一階の敷地を広く使用したリハビリセンターや、高度医療施設を備えております。リハビリテーション科には、ST12名、PT60名、OT33が在籍しており、私は主に、回復期リハビリ病棟の脳卒中・脳神経疾患の患者様のリハビリテーションに携わらせて頂いております。

社会人とし他職を経て、念願の言語聴覚士とし入職して約半年が過ぎました。

学生時代の貴重な実習期間はCOVID-19の影響が色濃くありましたが、言語聴覚士とし責任を持ち、患者様やご家族に真摯に向き合っていきたいと決意した事を、入職時、未熟さに悩むたび思い出し自身を奮い立たせていました。

現在も、試行錯誤の日々は変わらず悩む事も多くあります。訓練プログラムや日々の疑問を解決する為、積極的に言語聴覚士の先輩方にご指導頂き、他部門の方からも多くのアドバイスを頂くことで、知識の深まりと

視野の広がりを感じております。そして様々な形で関わらせて頂いている患者様に、日々本当に多くの事を学ばせて頂いております。

今後も学ぶべきことは、まだまだ多く、広い視野で立ち止まる事なく吸収し、言語聴覚士として、的確な対応と《伝える》事に責任を持ち、支援を行えるよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



## 新人紹介 II

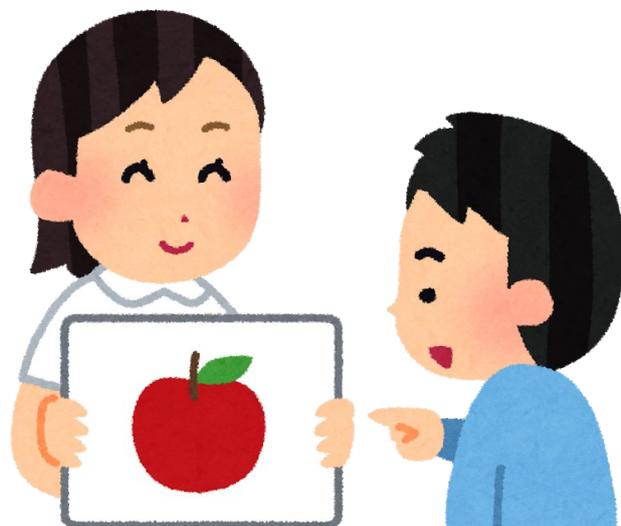
### 株式会社T&K 児童発達支援事業所はなづな 三角彩音

私は令和2年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、その後1年の間、多種多様な言語聴覚士の職種形態を養成校にて学ばせて頂いたのち、現在は児童発達支援事業所はなづなで言語聴覚士として勤務しています。当事業所は児童発達支援を行っており、0歳～年長児（未就学児）を対象に、個別療育で遊びやコミュニケーション、運動といった活動を通じた経験を積むお手伝いをさせていただいております。

6月から新規開所し、少しずつ業務の流れに慣れてはきましたが、さまざまな悩みを持つ子どもたちとそのご家族の方と関わるなかで、自分が持っている知識だけでは太刀打ちできず力不足を実感しています。しかし、言語聴覚士の先輩や他職種の方に相談、を行い、一緒に悩みながら解決していくことで、子どもたちとの関わり方や必要な技術を日々学ぶことができています。

また療育を開始した当初よりも、お話が聞き取りやすくなったり、できることが増えていく子どもたちの成長を感じることができて、やりがいを感じると共に子どもたちから学ぶことも多くあります。この気持ちを忘れずに、これからも1人ひとりにあった支援を行っていきたいです。

まだ開所から数か月しか経たず私自身の経験も浅いですが、これからも利用して下さる子どもたちとそのご家族に寄り添える言語聴覚士を目指して、努力を重ねていきたいと思っております。



# 事務局通信

## 事務局動向

### 3月

- 3月19日 県くらし保健福祉部障害福祉課へ「令和2年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業に係る実績報告」提出
- 3月25日 鹿児島県介護実習・普及センターへ「介護講座に係る講師派遣について（回答）」送付
- 3月31日 鹿児島医療技術専門学校へ「学校関係者評価委員会委員および教育課程編成委員会委員就任承諾書（小倉理事）」提出

### 4月

- 4月1日 鹿児島県介護実習・普及センターより「令和3年度介護教室派遣事業実施に伴う講師派遣等について（依頼）」送付あり
- 4月12日 指宿市役所健康保険福祉部健康増進課より「発達相談会への講師派遣について（依頼）」送付あり
- 4月16日 総会案内発送
- 4月26日 全国協会へ生涯学習プログラム症例検討会報告書（大隅・北薩合同）提出

### 5月

- 5月6日 第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会福岡大会より「後援依頼」送付あり
- 5月6日 第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会福岡大会より「座長のお願い（依頼）」送付あり
- 5月6日 全国協会より情報誌STANDUP（活動紹介）執筆依頼あり
- 5月11日 鹿児島県PTOTST連絡協議会監査
- 5月24日 全国協会へ生涯学習プログラム報告書提出
- 5月26日 鹿児島県介護実習・普及センターより「令和3年度介護教室派遣事業実施に伴う講師派遣依頼について（依頼）あり ※種子島

### 6月

- 6月1日 全国協会より春期都道府県士会長会議開催案内あり
- 6月3日 全国協会へ県士会基礎情報提出
- 6月3日 公文書発行（介護実習・普及センター講師派遣依頼回答書）
- 6月4日 公文書発行3通（初期研修講師派遣依頼）
- 6月7日 公文書発行（指宿市発達相談会講師派遣依頼回答書）
- 6月8日 県PTOTST連絡協議会地域ケア会議助言者に関する推薦者及び研修会参加者名簿を提出
- 6月10日 県子ども家庭課より「新生児聴覚スクリーニングの手引き運用に関わる聴覚に障害のある子どもへのフォローアップ施設について」問い合わせあり
- 6月15日 茨城県言語聴覚士会より「2021年言語聴覚の日公開講座における共催ご検討のお願い」送付あり
- 6月16日 県子ども家庭課より「新生児聴覚スクリーニングの手引き運用に関わる聴覚に障害のある子どもへのフォローアップ施設について」報告済み

# 事務局通信

## 7月

- 7月1日 ホームページへ各種届出フォーム（WEB申込）を掲載
- 7月12日 全国協会へ生涯学習プログラム基礎講座（9月25日）申請
- 7月12日 公文書発行（2件，生涯学習プログラム講師依頼関連）
- 7月15日 全国協会へ生涯学習プログラムポイント取得対象研修会（9月25日）申請
- 7月15日 公文書発送（1件，生涯学習プログラム講師依頼関連）
- 7月15日 県くらし保健福祉部障害福祉課より令和3年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業についてメールあり→委員会へ
- 7月16日 県くらし保健福祉部生障害福祉課より令和3年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業について書類作成依頼あり→委員会へ
- 7月20日 県歯科衛生士会より「地域ケア会議合同研修会」の開催について（依頼）あり
- 7月27日 県くらし保健福祉部へ令和3年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業業務委託に係る書類（見積書・誓約書）を提出

## 8月

- 8月4日 日本福祉用具供給協会鹿児島県ブロックより「快護生活フェス！オンライン特別セミナー from かごしま」後援依頼送付あり
- 8月4日 県PTOTST連絡協議会より「会費負担金納入のお願い」送付あり
- 8月11日 県障害福祉課くらし保健福祉部より「令和3年度失語症者向け意思疎通支援者研修事業業務委託に係る書類作成について」メールあり→委員会
- 8月11日 県障害福祉課くらし保健福祉部より「令和3年度失語症者向け意思疎通支援者研修事業業務委託に係る書類作成について」送付あり
- 8月16日 県くらし保健福祉部こども家庭課より「鹿児島県新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会委員の推薦について」送付あり→議題
- 8月20日 県障害福祉課くらし保健福祉部より「【修正版】令和3年度失語症者向け意思疎通支援者研修事業業務委託に係る書類作成について」送付あり
- 8月23日 県障害福祉課くらし保健福祉部より「令和3年度失語症者向け意思疎通支援者研修事業業務委託に係る書類（契約書・免税事業者届出書・事業計画書・請求書）」送付
- 8月24日 茨城県言語聴覚士会より「言語聴覚の日公開講座当日の会長挨拶に関して」送付あり→会長

# 事務局通信

## 理事会報告・決定事項（事務局）

### 4月

- 令和3年度介護予防地域ケア会議における助言者派遣について（助言者3名）について検討された。
- 指宿市発達相談会（6月10日、10月14日、令和4年2月3日）担当者について検討された。
- 総会開催方法について検討された。

### 5月

- 第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会福岡大会後援について承認された
- 第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会福岡大会座長について（小児1名、成人1名）について検討された。
- 全国協会情報誌STANDUP'（活動紹介）執筆について（[800-1000](#)字、6/10まで）について検討された。
- 総会実施方法について検討された。
- teams導入について検討された。

### 6月

- 千葉県言語聴覚士会 2021年言語聴覚の日公開講座後援について承認された
- 各種届出のWEB化について承認された。
- 委員会へのZoomアカウント提供について検討された。
- サフランの会補助金について失語症支援者養成委員会にて検討することとなった。
- 言語聴覚の日広報活動について検討された。
- 今年度の基礎講座講師について検討された。

### 7月

- 九州学術集会福岡大会座長について検討された。
- 地域リハ推進に関する概要の啓発資料をHP上へのアップすることとなった。
- 言語聴覚の日広報活動について検討された。

### 8月

- 快護生活フェス！オンライン特別セミナー from かごしま後援依頼について承認された。
- 鹿児島県新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会委員の推薦について検討された。
- 新部署設立について検討された。
- 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業実施方法について検討された。
- 基礎講座・新人教育研修開催方法について検討された。

### その他

- 県士会各種届出（入会・退会・休会・所属変更等）がWEBから可能となりました。便利なWEB届出をご利用ください！

事務局 松尾康弘

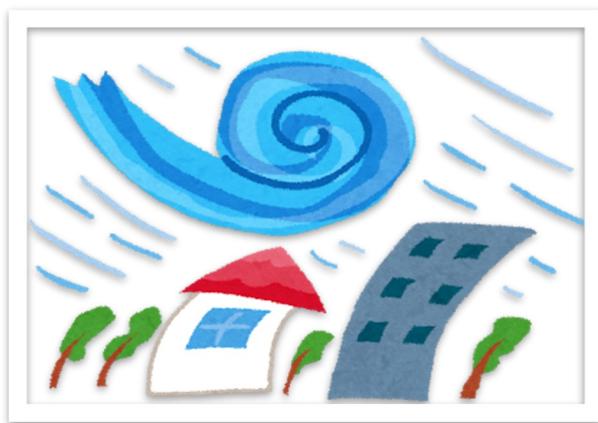
## 地域局(北薩地区担当)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。地域局理事（北薩地区）の平原です。

昨今は記録的な豪雨災害が続き、北薩地区でも浸水や土砂災害などによりたくさんの被災された方がおりました。新型コロナウイルスの脅威も未だ衰えず、安心して過ごせる日々が早く来ることを切に願っております。

地域局では令和3年4月に大隅地区・北薩地区合同のポイント取得対象症例検討会を初めて開催しました。オンラインの研修を受講することはあっても、オンラインで発表・配信する機会は非常に少ないので、発表された先生方にとっても貴重な経験になったかと思えます。また、鹿児島県以外の都道府県の先生方も参加され、これまでの症例検討会とは違った緊張感、楽しさがありました。様々な可能性のある研修会となりました。

『全国に向けて発表するぞ!!』、『ビギナーセミナーで発表の練習をしたい』『様々な人からアドバイスをもらいたい』皆様のご要望に応じて、地域局ならではの研修も行なっていきたいと思っておりますので、ご意見いただけますと幸いです。



株式会社スカイメディケアラボ  
ことばの教室そらまめキッズ

平原孝洋 事業所連絡先：TEL:[080-3498-7990](tel:080-3498-7990)

## 社会局(公共事業・保険担当)

2025年に向けて鹿児島県においても、病床の機能分化及び連携の推進と、住まい、医療、介護、予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進められていきます。各市町村においても地域ケア会議が順次開催されてきており、言語聴覚士が参加する地域も増えてきております。昨年度より、鹿児島県では効果的・効率的な実施に向け、これまで地域ケア推進リーダー研修終了者かつ地域ケア会議の経験のある専門職アドバイザー（PT、OT、ST）を市町村へ派遣する事業を始めております。

私自身もこれまで地域ケア会議に2年間参加させて頂く機会があり、要支援者だけに目を向けるのではなく、日々、支援する家族・地域包括ケアセンター職員に向けて、助言する事もあります。「ことば」や「飲み込み」などの専門職である我々が、要支援者に対して「出来ている事」、「出来る事」つまり、「ストレングス＝強み」を見つけてあげる事、伝えてあげる事が大切です。会議当日はケアマネージャーが作成するケアプランに対して、批判するのではなく、各々の専門職視点での助言（専門用語は控え、できるだけ分かりやすく説明）では実際の生活環境や、これまで事例に上がる要因になったエピソードや要支援者の精神・心理状態も踏まえ、発言する各専門職の姿に、私自身もあらためて気付かされる事も多く、病院勤務では得られない貴重な経験の場になっております。今後も地域包括ケアシステムの構築に向け、市町村が介護予防の為、地域ケア個別会議や介護予防講座などを開催し、多職種協働による自立支援・重度化防止や地域課題解決に向けて推進していく事が予想されます。会員の皆様には、地域における医療の状況や社会資源の把握など、患者の退院後の生活や周辺を知る事で、さらに臨床の幅が広がると思います。地域リハビリテーションに興味を持ち、地域に貢献したい方は是非、鹿児島県言語聴覚士会主催の「初期研修」、鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会が主催する「介護予防推進リーダー研修」・「地域ケア会議推進リーダー研修」に参加し、地域のリハ活動に一人でも多く賛同・参画して頂けると幸いです。

# 社会局(公共事業・保険担当)

令和3年度の介護報酬改定では、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」のポイントが挙げられております。言語聴覚士においては、介護老人保険施設のリハビリテーションマネージメント計画書情報加算と、医療院の理学療法、作業療法及び言語聴覚療法に係る加算が新設されております。2024年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けて、他の医療機関等との連携、介護サービスとの連携・協働など取り組みが重要になると考えられます。

診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらうこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせさせていただきたいと考えております。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム:

<http://st-ba.net/contact/>

公益社団法人鹿児島共済会 南風病院

リハビリテーション科 樋渡 健太郎

TEL:[099-226-9111](tel:099-226-9111) FAX:[099-805-2509](tel:099-805-2509)

# 社会局(広報)

## 令和3年度 「言語聴覚の日」に 関する広告掲載の報告



新型コロナウイルス感染症について依然としてなかなか先が見えない状況ですが、会員皆様の生活への影響はございますでしょうか？さて、社会局広報部のメインの業務となります広報活動についてはその影響をとて強く受けております。

毎年、言語聴覚の日である9月1日前後に鹿児島市内のイオンモール鹿児島にて「ことばの相談会」を長いこと実施させていただいておりました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響にて昨年度は中止となりました。今年度については、感染対策をしっかりとした上で実施できればと考えていたのですが、今年度実施予定であった、9月11日は鹿児島県においては、まん延防止等重点措置期間中となり、今年度も非常に残念ではありますが開催は中止させていただきました。今後、少しずつ現在の感染状況が改善されていることを願い、来年度こそは実施出来ることを期待したいと考えております。

しかしながら、言語聴覚の日のイベントは「ことばの相談会」だけではございません。今年度も昨年度に引き続き、言語聴覚障害を抱えた方や言語聴覚士へ関心を持たれている方、また広く一般の方に対して本土会を紹介させていただきたく、リビング新聞（発行：南日本リビング新聞社）へ広告を掲載させていただきました

（「リビングきりしま」には8月7日437号にて、「リビングかごしま」には8月21日1308号にて）。鹿児島県内の各地域・各ご家庭へ配布されていらっしゃるかと思います。会員の皆様はすでにご覧いただけましたでしょうか？ バックナンバーをリビングかごしまWebよりご確認ください（URL: <https://mrs.living.jp/kagoshima>）。もしよろしければご確認ください。まずは、言葉や飲み込みに困難を抱えられている方に対し、一人でも多くの方に対する支援へと繋げていく事に加え、言語聴覚障害に関する社会的認知が広がる事が出来ればと考えております。

社会局広報部では広報活動を通して、県士会活動および言語聴覚士の専門性や魅力を伝えていけるよう発信していきたいと思っております。今後も会員の皆様の協力が必要です。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

社会局広報 小牧 祥太郎

# 学術局(新人教育)

オンラインでの研修会開催もかなり浸透してきました。  
皆さんもそういった研修会に参加する機会もだいぶ増えてきたのではないのでしょうか？

第19回新人教育研修会は東京医科歯科大学教授の松尾浩一郎先生を講師にお迎えし、「多職種でつなぐオーラルマネジメント-日本語版OHATを用いた取り組み-」をテーマにご講演いただきました。

若手ST向けに分かりやすく、また、多職種との連携のポイントも含めて、すぐに日頃の臨床でも応用できる内容で、参加された方々にとって多くの学びがあったのではないかと思います。

松尾先生のようなご高名な先生にご講演いただけるのも、Webならではの！！と感じているところです。

前回の新人教育研修後のアンケートにおいては多くの方がWebでの研修会の利便性を感じておられるようでした。一方、内容としては実技を望む声も多く、「顔を合わせない状況で実技を伝える」をどうやってクリアするか・・・、悩ましい課題ですが、学術一同この難問を解決できる企画を考えていきます。

皆様の声がより充実した研修へつながりますので、ご要望お聞かせください。

よろしくお願いいたします。

【お問い合わせ・ご要望】

[yishihara@yonemorihp.jp](mailto:yishihara@yonemorihp.jp)

鹿児島県言語聴覚士会学術局新人教育担当 石原あて

# 学術局(生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。

今年度より学術局生涯学習担当となりました尾崎幸平です。鹿児島県言語聴覚士会を微力ながら盛り上げ、ともに成長できればと考えています。また、この時代だからこそ楽しく、笑顔が増やせるような活動ができるよう精進していきたいと思います。

令和3年9月25日(土)に基礎講座1『臨床のマネージメントと職業倫理』、基礎講座2『臨床業務のあり方、進め方』を講師に株式会社L - はびねすの西野将太氏をお招きし、WEB開催致します。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

今年度は基礎講座3『職種連携論』、基礎講座4『言語聴覚療法の動向』も開催予定となっています。日本言語聴覚士協会正会員が基礎から学べる大チャンスです。基礎プログラムが終わっていない方はもちろん、再度受講しても日頃の臨床を見直す良い機会になるものと思います。是非、ご参加をお待ちしております。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター  
リハビリテーション部 尾崎 幸平

TEL: [0993-32-9999](tel:0993-32-9999) FAX: [0996-32-0496](tel:0996-32-0496)

# 学術局(小児)

今年度より、小児学術局の理事を務めさせて頂くことになりました、ことばの教室そらまめキッズの松永宏行です。会員の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

今年度小児学術局では、12月19日(日)に社会福祉法人みらいワークステーション未来 言語聴覚士赤壁省吾先生を講師として、『発達障がいの特性から考える就労へつなぐ支援のポイント』をテーマに研修会を企画しております。

赤壁先生は、徳島県言語聴覚士会副会長、とくしま発達しあわせネット代表、日本言語聴覚士協会理事、日本LD学会広報委員、子どもの発達支援を考えるSTの会副代表など様々な委員や活動に携わっております。

現在は、放課後等デイサービスから就労支援までの管理者として、日々小学生から成人期の方々の支援やスタッフ育成などに従事されております。コロナウイルス感染予防の観点から、オンラインでの開催とはなりますが、多くのご参加をお待ちしています。

ことばの教室そらまめキッズ  
松永宏行

# 財務局

会員各位

平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。  
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。6月に年会費の引き落としをさせていただいております。不備がありましたら、ご連絡いただけますと幸いです。領収書をご希望の方もご連絡いただけますと、送付いたします。

まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費が2年未納となりますと、退会処分となりますのでご注意ください。

会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。

財務局メールアドレス

[kago\\_st@yahoo.co.jp](mailto:kago_st@yahoo.co.jp)

担当 鎮守美和

よろしくお願い申し上げます。

## 編集男紙

平素よりお世話になっております。皆様、新型コロナウイルスの影響で思い通りにいかない日々をお過ごしのことと思います。9月30日には緊急事態宣言と鹿児島県にも適用されているまん延防止等重点措置が解除されますが、感染対策を緩めることを怠らずに気をつけていきましょう。

末筆ながら、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

編集者より